

20馬発第657号
平成20年10月9日

国土交通省道路局長 様

馬路村長 上治 堂



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記の件について、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

高知県馬路村

環境・景観に配慮したインフラ整備を要望

高知県では、「地球温暖化防止県民会議」を設立し、県民、事業者が連携・協働し、一体となって、地球温暖化防止活動を県民運動として取り組んでいます。木製品を使用することは、国土の 67%、高知県では 84%、馬路村では 96%を占める森林の整備へとつながり、そのことが国土の保全や、CO2 削減など環境を守る大きな力となります。

木製ガードレール、木製転落防止柵、残地型柵等、今日では様々な木製の資材が研究開発されています。しかしながら、現状では採用される件数が少ないことから単価が割高となり、既存品がその市場の大半を占めているのが現状です。積極的な木製品の利用により、地域資源を守り育て、森林（環境）を守る地域に道路行政と国土保全の両面をあわせて推進することができると考えます。

高度医療施設への早急かつ安全な搬送を可能とする道路整備を要望

本村から村外へのアクセスは、主要地方道安田東洋線の 1 本だけであり、迂回路はなく、公共交通機関での交通手段は、この県道を 1 日に 4 便通るバス便だけです。村の多くの住民は、移動手段として自家用車に頼っており、自家用車の利用できない住民はバス便に頼らざるを得ない状況です。

さらに、本村には大きな総合病院は無く、村が運営する馬路診療所・魚梁瀬診療所の 2 つの診療所のみで医師は 1 名だけです。また、馬路村を管轄する消防署は田野町に所在しており、不利な地理的条件から緊急車両の到着までに 30 分を要します。そのため、火災時や救急時の応急措置は、地元住民で結成される消防団や自治体の担う役割が非常に大きく、病院までの緊急搬送が発生した場合、救急車の到着までに 30 分、病院までの搬送に 30 分、合計 1 時間を要します。

災害時、基幹道路が寸断され、陸の孤島となりうる確率の高い本村において、近隣市町村と連携した医療、物流等のサービスを広域的に共有できる、交流基盤を整えるためにも早急な基幹道路の整備を要求します。

②－１ 地域の現状と抱える課題

高知県馬路村

○現状

本村では急傾斜地が多く、道路の幅員が十分確保されているとはいえない状況です。また、急傾斜地に指定されている箇所も数多く、そのような条件下で整備された村道は、大雨時には小規模なものも含めると災害も頻繁に発生し、生活に支障をきたす場面も稀ではない状況です。

県道、村道、農道、林道は山の中を這うように開設されており、昔ながらの風景のなかで、日本特有の四季を感じることができます。いま流れゆく時代のなかで、山村が姿を消し、そこにあった田舎の田園風景も姿を消しつつあります。いま残すべき日本の田舎の風景が馬路村には残っており、そこには、人が住み、生活するための道路があります。本村では、馬路村「木の里」街なみづくり景観条例を制定し、道路を含めた景観づくりに取り組んでいるところです。

本村も例外ではなく、高齢化の一途をたどっており、今後も増加の一途が予想されます。それに対し、次世代を担う子どもたちは減少する一方です。本村の道路は、歩道が整備されているわけでもなく、十分な幅員が確保されているとはいえない状況です。大型車が通る道路を子どもたちは通学路として利用し、お年寄りも同様にこの狭い道を利用しています。高齢者や子どもが安全に安心して歩行できる空間とはいえない状況です。

○課題

地域の自立を支援する道路整備

平常時は基より災害時における避難路としても十分な機能を果たしうる、住民の安心・安全が確保される道づくり。また、それぞれの地域の気象や地理的条件を考慮され、日頃の管理がしやすく維持費削減が見込まれるメンテナンスフリーの道づくり。

伝統的な農村風景の保全

地域資源を生かし、懐かしい農山村の景観の維持と「木の里・馬路村」の復興を目指した景観づくり、利便性、双方のバランスのとれた地域コミュニティ形成が図れる道路の整備。

高齢者、子どもが安心して歩行できる道路整備

少子・高齢化社会に対応し、高齢者や子ども、障害者等の利便性、安全性を追求したバリアフリー化された道路整備。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

高知県馬路村

前述のとおり、本村から村外へのアクセスは、主要地方道安田東洋線の１本だけであり、村民の産業と福祉を支える“命の道”です。村民は移動手段として自家用車、あるいは、１日４便のバス便に頼り、さらに、緊急車輛の到着までには、３０分を要する本村で生活を営んでいます。

その住民が“命”を委ねる主要地方道安田東洋線は、時間雨量５０ミリ、連続雨量２００ミリを超えると通行止めになり、村民の足を寸断する危険を孕んだ道路です。四国山地を背後にひかえる本村においては、太平洋からふきあげてくる高温多湿の風が標高１，０００ｍ級の山脈によって遮られるため、多量の降雨をもたらします。そのため、１ヶ月の平均雨量は、約３００ミリと全国でも有数の多雨地帯であり、通行止めになることも稀ではありません。

最低限、村の産業・福祉・観光を支える道路として、住民の命を守る高度医療施設への早急かつ安全な搬送を可能とする道路整備と、災害に強い道路整備が必要不可欠です。また、その道路整備においても、地域資源を有効活用し、「木の里・馬路村」と呼ばれる景観づくりと保全及び利便性、双方を追及した管理しやすい道路整備を行うことにより、地域産業を守り育て、地域の活力につなげる村を目指します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

高知県馬路村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地球温暖化の防止	木製品の積極的利用（木製ガードレール、木製転落防止柵、残地型柵等の積極的利用）	道路事業において木製品を積極的に利用することにより、地域産業の振興や森林整備が進み、そのことが国土の保全や CO2 削減につながる。	地域産業の育成
大規模な地震、水害等の災害に強い国土づくり		災害時に強い道路づくりと通行危険箇所の改善を行うことにより、住民が安心快適な生活を営むことができる。	